

研究活動報告

第78回数理社会学会大会

第78回数理社会学会大会 (JAMS78) は、2025年3月13日 (木)、14日 (金) の2日間、青山学院大学相模原キャンパスを会場として開催された。会員数に比して、大会での報告数が多いことがこの学会の特徴であるが、本大会はその傾向がますます顕著であり、自由報告 (口頭発表) は19件、萌芽的セッション (ポスター発表) の件数は70にもものぼった。

国立社会保障・人口問題研究所からは、以下の所員が報告を行った。

- ・ 泉田信行・藤間公太 (京都大学大学院) 「児童虐待における記録のあり方の一検討～障害記載状況の基礎的分析から～」 (萌芽的セッション)
- ・ 吉田航 「不平等研究に対する組織的アプローチの意義」 (研究活動委員企画シンポジウム)

数理社会学会の特徴に、若手・中堅を中心とする研究者が、新しく多様な分析手法を紹介し、それに関する議論が活発になされる点がある。今回の大会でも、萌芽的セッションの熱気にその特徴がよく表れていた。また、研究活動委員企画シンポジウム「階層研究における新たな説明の可能性に向けて：地位構造とその決定過程を問い直す」では、オーソドックスな階層研究における (潜在的な) 陥穽について、筆者を含む3件の報告がなされ、活発な議論がその後続いた。

今回の JAMS79 は、2025年夏に関西学院大学で開催予定である。

(吉田 航 記)

神戸大学 招待講演

2025年4月26日、神戸大学で開催された第10回国際ワークショップ「Biomathematics Modelling and Its Dynamical Analysis」において、「Evolution and population dynamics through stochastic processes」という題目で招待講演を行った。本講演では、進化と個体群動態を結び付ける数理的視点として、確率過程に基づく人口モデルの理論を紹介した。特に、マルコフ過程や分岐過程を用いた漸近挙動の解析を通じて、進化的安定戦略や系統的な繁殖構造を記述できることを示した。国際的な聴衆の前で、確率論的枠組みが生物学における多様な問題解決に貢献し得ることを強調し、参加者からは他分野への応用や新たな共同研究の可能性について積極的な意見交換が行われた。本講演は数理生物学の国際的展開を示す重要な機会となった。

(大泉 嶺 記)

日本人口学会第77回大会

日本人口学会第77回大会は、2025年6月7日 (土)～6月8日 (日) の2日間、福岡大学 (七隈キャンパス (福岡市)) を開催校として、対面形式で開催された。121名が参加し、活発な発表と討論が行われた。

第1日にはシンポジウム「健やか100年時代をめざす人口学」および「地域人口論の新潮流—小地域人口統計の整備とGISの発展を契機として—」と題した会長講演 (井上孝会長 (青山学院大学)) が行われた。また大会前日には「地方行政のためのGISチュートリアルセミナー：地域医療とGIS」